

上部構造におけるアクセスホール内の所変化について

Changes at in the access hole in the superstructure

○ 相沢 八大<sup>1)</sup> 荻原 道<sup>1)</sup> 川端 秀男<sup>1)</sup> 佐藤 篤<sup>1)</sup> 奥寺 元<sup>1)</sup>

AIZAWA H OGIWARA O KAWABATA H SATO A OKUDERA H

東京形成歯科研究会<sup>1)</sup>

TOKYO PLASTIC DENTAL SOCIETY

I 目的： 上部構造の固定方法としてセメント固定及びアクセスホールからのネジ固定があるが、とくにアクセスホール内部の経時的臭気などの変化について報告が少ない。定期観察でアクセスホールの内容物を除去すると悪臭が発生されることがある。この変化は患者の QOL から問題が残る。今回このアクセスホール内部においての臭いと細菌動向について追及したので報告する。

II 材料および方法： 男女 10 名に対してアクセスホールの中に、小綿球挿入してストッピング仮封した後、その内容物をパナソニックデンタル社の細菌測定器細菌カウンター-DEPIM 法を用いて細菌検査（単位 LEVEL1~7）をおこなった。また、口臭測定は人の臭覚に頼る方法（0~3 に分類）と VSC（揮発性硫酸化合物）測定器（ルフレス値）【株式会社ドニス電機製】（レフレ ORV 値 0~180）を用いた。臭気予防対策としてフッ化物の細菌繁殖抑制を期待して、F バニッシュ材（フッ化ナトリウム 50g 含有ビーブランク・メディコーデンタル発売）を綿球につけたものを入れて比較した。測定と発表については、患者の同意を受けた。

III 結果： 1~3 ヶ月後のアクセスホール内の綿球の臭気は人の臭覚では、1~2 の臭いが発せられていた。また VSC（揮発性硫酸化合物）測定器（ルフレ）においては ORV 値 2~61 とバラツキが大きかった。一方、細菌測定器細菌カウンター-DEPIM においても微小な検体であるが LEVEL2~3 が最も多かった。また F バニッシュ材に綿球を付けたものと付けないものとを仮封し、ほぼ一ヶ月後同様に比較し使用したものでは臭気で 2 と 3 が最も多かった。F バニッシュ材応用においてはルフレス使用前平均値 39.3 ORV 値で、使用後は平均値 33.8 と逆転した。

IV 考察および結論： ネジ固定アクセスホール内部の綿球において人の臭覚 1 において DEPIM・LEVEL 値の平均は 1.00、臭覚 2 において DEPIM・LEVEL 値は平均 2.20、臭覚 3 において平均 3.00 と臭覚が強ければ DEPIM 数値の臭覚が高い数値になり、細菌の増殖により臭気を発することも考えられた。F バニッシュ材では、臭気予防の 1 方法であるがルフレス測定では困難と思われた。この事はバニッシュ材のエステルガム・香料等が感知されたと思われる。